

中斎塾 東京フォーラム
平成 28 年度 第十一回講話

平成 28 年 12 月 10 日
於 湯島聖堂

司会者が変わると雰囲気も変わるとは驚きです。

吉良評議員一下手で申し訳ない。

いやいや違います。印象が初々しかった。

吉良評議員一70にして。

そういう言い方をする時は、こういう言葉を思い出してください。今日の論語に蘧伯玉が出てきますが、「五十にして四十九年の非を知る。六十にして六十化す」と言った人です。

50歳の時、今までの人生49年間頑張ってきたけれど、まだまだ未熟だなと反省をした。60歳にして化すだから、まだ捨てたものではない。70歳にして化すという言葉も出てくる。化す人は初々しいです。

人間ちがうことをやらせられると、ドキマギしますし、真剣になります。良いことです。

論語の視点

今日は最初に論語を話しましたから、論語からいきましょうか。

<憲問十四>

【二四】子曰く、君子は上達し、小人は下達す。

孔子がいうには、素晴らしい人物は上達をする。「上達し」はレベルの高いこと、どんどん上達して分かっていく。「小人は下達す」は、私利私欲にまみれて、どんどん人様から蔑まれるようになっていく。ここは自分自身に置き換えて考えてみましょうということです。

今日は将来性のある人が素読をしてくれたから、その人に合わせて説明をしましょう。

弁護士という職業を選んだ。「君子は上達し」というのは、素晴らしい人物になるべく事上磨錬で毎日自分を磨いて、専門的なことも一生懸命に勉強している。それは相乗効果で良いことが続いていくと良いお客さんも増えてくる。それはちょっとした会話で、口に出さずとも「この人間できるな」となれば、次々に良い人を紹介してくれるということなる。

君子の赤ん坊のところは、自分を磨いていけば上達をしていくし、人々から尊敬されるようになる。この弁護に関しては右に出る者はないぐらいのところに行く。それが「小人は下達す」は、今日来たお客さんと話をしていると、この人けちだな、質問もすごい低レベルのことを聞くし、誰にでもできることを言うが、自分でやれば良いのに、適当なところでお茶を濁しておこう。あとは欲にまみれて人様を陥れようとしている時の手助けをして頂戴みたいな形で弁護依頼は結構ある。そういう仕事ばかり受けて成功していると、どんどん酷い話ばかりきて人相が悪くなるからね。テレビなどを見て政治家の顔を御覧なさい。極端だね。良くなってきた人は政治家として自分を磨いている。悪い人は人相が卑しくなる。見る人間を決めて、この人がテレビに出たら、顔つきがどうなってゆくかを見ておけば良いと思います。

【二五】子曰く、古の学者は己の為にし、今の学者は人の為にす。

学生時代、教えていただいた先生方で、本物の学者がいました。加藤常賢先生の言葉で「私ほど調べて勉強し、これほど心血を注いでこの文字については研究を重ね、解釈はこれ以外にないというところまで調べ考え抜いて断定をした。反対する人は出てこい」と。誰も出てきません。迫力があります。古の学者は、その専門については良いのですが、そのかわり日常生活は常識のない方が多いようですね。

例えば、来年の干支は丁酉（ひのと とり）といいます。丁という字はクギという意味が入っています。色々な先生方がこの文字の説明をしています。加藤常賢、白川静、菅野道明先生各方は純粹に学者ですので、クギという解説しかしていない。安岡正篤先生はクギという意味もあるけれど丁という字は、旧来の勢力と新しい勢力がぶつかりあって衝突しあう。そういうことを意味する文字であるという解説をしておられます。

今の学者はテレビつけて御覧なさいな。学者という人が出てきて、顔つきがどうもね。古の学者は自分自身を磨くために、修練のためにする学者。今の学者は人様に知られるために勉強するから、口先だけのパフォーマンスが多い。その時その時の状況に合わせて喋っています。「人の為にす」というのは、人に知られるために勉強するという内容の学者。今の学者はそういう人が多い。口先上手になってはいけないね。自分が勉強するものは自分を磨くためにやれば良い。人に知られるために学ぶのではありません。

【二六】蘧伯玉 人を孔子に使わず。孔子 之に坐を与えて問う。曰く、夫子 何をか為すと。対えて曰く、夫子は其の過ちを寡くせんと欲して、未だ能わずと。使者出づ。子曰く、使いなるかな。使いなるかなと。

孔子が 56 歳の頃、衛という国にいたけれども出て鄭に行く。それから 57~58 歳の頃に魯という故国に帰った。その時のお話です。

蘧伯玉は孔子が衛に滞在している時に、宿を提供してくれました。宿を提供してくれた素晴らしい人物ということになっていますが、その蘧伯玉が使者を孔子のところにおくった。孔子が世話になった蘧伯玉からお使いが来たから良い席に座っていただいて、孔子が使者に向かって「蘧伯玉先生は今何をしておられるか、どう過ごされているか」と聞いたところ、使者は「先生は毎日、失敗してはいけないと過失を少なくするよう努力しています。でもなかなかうまくいかない、不十分ですね」と答えました。それでその使者が仕事を終えて帰ったら、孔子が立派な使者だと言いました。

蘧伯玉が立派な人物だということについては、大正 14 年洪澤栄一が 86 歳の時に、蘧伯玉についてちょっと触れたものがあります。大倉喜八郎男爵が 89 歳の時に米寿の祝賀を帝国劇場で行い、その時に大倉喜八郎は素晴らしいという話になった。その後、大倉は中国に出掛けていった。その時の状況が国民新聞に載ったのでその記事を紹介するということがあり、新聞の見出しを読むと「大倉男爵大もて。奉天で歓迎会」これは大正 14 年 5 月 29 日の国民新聞の記事です。

【奉天 28 日発特電】大倉男爵が今回八十九歳の老齡を以て来満し、日支経済提携を実現し、日支共存共栄の生きたる例を示すべく蒙古入りをなすことについては、深く支那側の感謝と尊敬を惹き起し、張作霖氏は主に対する礼節を以て大倉喜八郎男爵を待遇しつつあるが、昨夜支那側一流の官民五十余名発起となって男爵の歓迎会を開いた。奉天官界において第一の碩学者たる袁金鎧氏は男爵のために古典的な歓迎の祝辞を読み、これに対し男爵は仏教の講演を以て答えたのは奇抜であった。男爵を今の蘧伯玉と申して可ならんか。

大倉喜八郎男爵は現代の蘧伯玉とって差し支えないであろうという新聞記事が載り、それを洪澤栄一が自分の書いた『論語講義』の中に引用して載せています。蘧伯玉という人はそれぐらい影響力というのかな、人物だよということが残っています。

恒例の質問

・今年を振り返って良い日が続いたとしみじみ思える人。しみじみが肝心です。

安岡正篤先生は六中観を考えるのに、元旦または大晦日に 1 年間を振り返ってどういう年だったか、反省をするのに自分が考えた六中観を使う。その時にしみじみ思うという。しみじみ思うけれども人様の前でやるのではなくて誰にも見えない所でやる。

1 年間の中で 1 日でも良い日があったらそれを拡大解釈する。1 年間考えて良いことがいくつもあった。悪いこともあった。天秤にかけたら大きい方に傾く。そういう発想をするとうちが違えます。良いことがひとつあったら、それをどんどん膨らませて拡大解釈していく。

何かひとつ良いことがあったと思ったら今年 1 年良かったなと思うことです。そうすると良い日が続いて 10 年 20 年経ってごらんください。その年は何があったか、あの年はこれがあって良かったなと思うことができます。私は高校時代から日記をつけていますが、それを見ていくと良いことばかり書いてある。

今年が良い日があったし続いたな。そういう思考でいきましょう。

・今年是比较的嘘をつかないことが多かった。嘘ついたこともあるだろうけれども、嘘をつかない日の方が多かった。どうでしょう。

・今年是有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった。感謝されることが多かった。高橋さんは、ぱっと手を挙げても良いと思うけれどな。

・昨晚から今朝にかけて健康法を実践した人。

けっこう多いですね。健康法は是非おやめにならないで欲しい。

今朝、書いたのですけれども今後の 10 年間で考えて、今後の 10 年間で自分の体力を考えました。10 年後はこうなっているだろうな、そのためにはと考えたのが自転車・スクワット・歩くこと。全部足です。2 番目は腕立て腹筋・真向法。あとは詩吟、1 ヶ月に何回かのペースで押し相撲を 10 年間やろうと思っています。

今年の 3 月 18 日から自転車を毎日 30 分乗り始めました。ここ数日は乗っていませんが、とにかく自転車に乗り続けて、今 8 ヶ月半です。脚の筋肉がものすごくつきました。次に屈伸は自転車だけでは足りないと思い始めて、スクワットも最初は 10 回ぐらいから始めました。頭の中にあるイメージが、ジャイアント馬場やアントニオ猪木です。あの人が新弟子の頃、力道山にしごかれて朝から晩までスクワットだけ一日何千回もしたそうです。ジャイアント馬場の回想録には汗で足元が水溜りになるスクワットだそうです。私はそれはできないけれど毎日 201 回やっています。楽しいね。最初は 10 回でしたが、1 ヶ月 2 ヶ月 50 回続けていると、ちょっと増やしてみようと思い、面白いことに 100 回できる。それで 100 回続けていくとまた増やしてみようと思い 50 回増やして 150 回もすぐできた。150 回を続けてみたら 200 回できた。だから最近はずっと 200 回にしています。たいして時間はかかりません。次は 300 回と思っているけど、まだね。それから歩くことは、今はだいたい 5 千歩ぐらいです。最初 2 万歩を歩いてみると、やはり体によくない。1 万歩に減らしたりして、色々やって今落ちついているのは 5 千歩から 7 千歩が体によい。全部人体実験しています。でも歩かない時は千歩ですよ。酷い時は 128 歩。会社に行くと会議ばかりしていると歩く暇がない。

自転車・屈伸・歩くこと・腕立て腹筋・真向法。腕立ては四つん這いになって膝をついてやっています。

会社の新卒の人にやらせると 10 回か 20 回で根を上げる人が多い。少し訓練していても

30回か40回。この間、若い人が道場に集まってやっているのを見にいったら50回で根を上げていた。その中で氣楽にやっている人がいた。一緒にやってみたらその人は100回ぐらいで根をあげてしまった。

その他に、真向法の先生に上半身鍛えられますと教えてもらった運動300回やっています。今朝は326回です。真向法はお年寄りの方にも役に立つ。2月に人間ドックがあるので体力年齢を測ってもらおうかと思っています。

・今年1年は自分磨き、我ながらよくやったと思う方。

人が見てではなくて自分で思ったのですから、1回でも良くやったなと思ったら良くやったのです。

5分前になったら鐘を鳴らしますが、鳴らす時は心が穏やかな時は良い音色。心が乱れている時はガチャガチャという音色。よく真剣に聞いてみて、良く鳴ったら拍手をしてください。

吉良評議員—今日は乱れますよ。

緊張したら緊張をフッと飛ばせば良い。緊張をフッと飛ばすのは密教の秘法です。木内信胤先生は、大事なことは簡単に言うな。簡単に書くな。簡単に書くと、こんなこと知っているよと軽く流しちゃうから、この話は大事な話をしていますと今の人にはきちんと教えてからでないと大事な話をしてはいけない。言葉にしても、この言葉はとても大事ですという添え書きをつけてやらないと軽く読み過ごす。そこは読んでいる中でピリッとくるものを見つけれられる能力が落ちているからということです。言葉は大事でございます。

紹介書籍

『物理の講義』湯川秀樹著 講談社学術文庫

今日は「創造の原点に帰る」というテーマでお話ししている本は『物理の講義』タイトルだけみると難そうです。経緯を読むと、大学で3日間、物理学概論という表題で話をした講義録です。講義録ですから、学生に向かって話している内容は、ニュートン力学なんて難しそうだし教科書は素晴らしいことばかり書いてあるけれどもニュートンという人が何に悩んで、どういうところで苦勞して、どんな汗を流し涙を流してニュートン力学を確立していったか。そういうことは教科書には載っていない。学生は試験勉強ばかりして

いるが、優秀で成績が良くていくけれども世間のことが全然わからない人がとても増えている。きっちり出来あがった教科書をみたら、その背景は何だということをよく考える癖をつけなさい。そしてニュートンはこうだったみたいなことが書いてあります。

例えば、来年3月18日に10周年記念式典をします。その時に優太郎さんに来ていただいて、歌を聞かせてもらいたいし、踊りもみせていただきたい。その場はとっても盛り上がり拍手がたくさん出る。だけどそれは優太郎さんの陰にある努力や汗とか涙とか、そんなことは分からない。その華麗な状況を見て、その背後にあるものまで洞察できるぐらいの力を持った人が、拍手をする人の中に、そこまで見通して拍手ができるの良い人と優太郎さんの顔を見てそう思っております。

テーマ

<創造の原点に帰る>

「創造の原点に帰る」というテーマは、自分がここまで来たかなと仮に思った。周りからもそう言われた。だったらスタートは何だったんだろうと考えてみる。最初は何を考えてこれをやりだしたのか。

例えば、中斎塾フォーラムであれば石川梅次郎先生から私は言われて「還暦過ぎたら社会に恩返しをする年代に入るんだよ」と言われたのが原点です。58歳で社長業を辞めて59歳は準備期間としてフォーラムを1年間準備しました。それで60歳からスタートをさせた。出だしは先生から還暦を過ぎたら社会の恩返しの年代というところがスタートでした。それで人生をよく考えてみました。どんどん楽しく追求していったら知足という言葉につきあたりました。「足るを知る」ということは素晴らしいことだなと思い、これを広げたいという思いから始めました。

皆さんは自分で何かしておられるものの原点、スタートは何だったのか考えられるとよいと思います。

その原点を見ると、さあ10周年だから、これからの10年はどうすべきか。そういうことを考える必要がある。これも私の個人的なものですが、これからの10年を考える上で10年後こうなっていると良いねと思って、これはなりたくない、なりたくないのを今朝がたランダムに書いていました。

ちょっとご紹介をすると、友達連中は特に私の兄は毎日医者に行きます。予定表を見ると今日は整形、明日は眼医者、その次の日は歯医者。そうするとこのお医者さんの言うことは信用できないからセカンドを探していく。毎日お医者さんに行く用事ができている。友達を見ていると、来週は高校時代の同窓会ですが、あそこを書いてある字が見えないとか何の薬をお前もっているのか？俺の薬と比べてみようとか、そんな話ばかりで、知るかと思えます。

今朝書いたのは、毎日お医者さん通いをしている自分の姿が見えるか。自分の体のメンテナンスが終わって健康体でいる自分が10年後見えるか。それから今、付き合っている友達で棚卸が終わっているか。家族とは仲良く付き合っているか。毎日の生活習慣はどうなっているか。そういうことを考えていき、先ほどの体力年齢で申し上げたようなことをしている。そうすると一番ポイントだと思うことは10年後やりたいことがあるかどうか。知りあいに聞いてみると、やりたいことがなくなって朝起きたら今日は何して過ごそうかなと考える。お腹すいたから朝ごはん。暫くしたらお昼ごはんになって、夜になると眠くなって一杯やって寝ちゃった。毎日こんな生活をしていて俺は何なんだろうと。

私のおじで植物人間になった人がいて、その人は身内の連絡がつかない。胃ろうをやっている。責任ある立場の人が「この胃ろうを止めていただきたい」と言っても出来ないそうですね。植物人間になった人を胃ろうすることによって、ただ生かしているという状況でも死なせる訳にはいかないから生かしておく。そうするとそれは法律が良くない。最初に考えた人は良いこと悪いことを考えながら色々やったのだろうけど、ここらへんは考えものだと思います。

木内信胤先生も亡くなる前は、死ぬことは怖くはないけれども認知症になるのが怖いと言われた。それがすごく鮮明に残っています。ですから10年後はやりたいことがあるかどうか。それでね、はた迷惑なのが自分だけやりたくて周りがやって欲しくない。そういうものも困るなと思いますので、自分がやりたいことと、人が聞きたいこと、人がやって欲しいことが一致したら素晴らしい人生です。

10年後は…

10年後のフォーラムは、若い人がどんどん増えているね。若い人が増えていてお付き合いしている団体がやっぱり増えている。今のところは福島に仲間が少しできました。そうすると福島の人、群馬の人、栃木の人、東京の人が交流しあえるような動きになると良いですね。

そういう動きの中で日本経済がこれから悪化をする。悪化をして良くなったりするかな。干支学でいけば60年周期でものを見ますから、60年前は昭和32年です。昭和32年の年に何があったか。昨日、詩吟の先生方に話しましたら興味をもっていただきました。

昭和32年に起きたことは、南極に基地ができました。国産ロケット第一号が成功。日米新時代来たるという共同声明が発表されました。日本は岸総理大臣、アメリカはアイゼンハワー大統領です。東海村に原子力の火が初めて灯った。ちょっと余分なところを出すと大相撲の六場所制が始まった。あとは売春防止法が施行されて赤線の灯が消えた。

今の日本の仕組みを作ったのが60年前でもう限界がきた。どんどん新しい仕組みを作らなければならない年回りになっている。干支学はぴったり60年前を見るのではなくて、その前後も見ます。その時代を見ます。時代の流れ、潮流を見ます。

時代の潮流で見ると 10 年刻みで眺めて見たときに、昭和 30 年 GNP が 17 兆円。10 年後 40 年 GNP は 41 兆円。そうすると年率で 9%以上。それだけ歴史で眺めると所得倍増の時代すごい時代だねとなりますが、その間、上がったたり下がったりしています。

最初は神武景気で勢いよく伸びたら、次は鍋底景気。伸びていったなと思ったら昭和 37 年でまた落ちた。それでまた上がっていった。その当時の評論家の話を見ると、これでこの神武景気は終わって途端の苦しみが始まる。不景気がずっと続くとかね。その時その時で見たこと感じたことを喋るから仕方がないけれど、歴史を振り返ってみると、若干の沈みはあったけれども 10 年間でこれだけ伸びたという言い方で教科書は括ります。先ほどの教科書の説明と同じです。ですから我々が見る時に 10 年間の中で伸びたり落ち込んだりが繰り返されながら、でも 10 年後はここまで来たいもんだねと、きっちりした計画を立てる。計画は順調にいくものしか考えないから、落ちるなんて考えない。だから落ちることも想定してやっていかなければならないと思います。

これから我々 10 年後、個人的なもの、フォーラムのもの、フォーラムでみれば、足るを知るという考え方がごく当たり前になって、他の国々との付き合いも当たり前になる。色々な団体と付き合いが広がり各地域との付き合いが広がっている。それで若い人が中心になっている。そういうことで、猪瀬理事長は大所高所からものをみて、そういう状況下で 10 年後かなという気がしています。

これはね、目的をつくって必ずこうしたいではないんです。こうなるのが良いね。こうなったら嬉しいね。こうなるのが理想だね。10 年後の目標はそれが一番良いです。明確にきちんと目標を立てて、これまでに売り上げがいくらかと決めることはない。決めると縛られる。もうそういうお金の時代ではない。

時事評論

今日の新聞で面白いと思ったのがありました。お金のことです。今日の読売新聞です。インドは主要なお札が 11 月 9 日に突然廃止された。財務省は 8 日脱・現金社会を目指し電子決済の促進策を発表した。1000 ルピーと 5000 ルピー。日本でいけば 1 万円札と 5 千円札を廃止した。現金がないから、かわりにクレジットカードを使うので電子決済をする。そうしたら現金不足による買い控えが広がり、日用品の売り上げ約 2 割が減ったとされる。でもこれから政府はクレジットカードを普及させたいと考えている。インドは現金をどんどん減らしています。

日本の場合も旧円のお札は使ってはいけないという時代がありました。昭和 21 年 2 月 17 日の新聞で緊急金融措置令が発表され、実行しました。今まで使っていたお札は使えないから、たんす預金のお金は全部無効、銀行に預けてあるお金は下ろせません。新しいお札でこれからやりますと日本はやったわけです。似たようなことを今回インドがやった。酷

い経済破綻を起こした国々はだいたい似たようなことをやっています。

今、私が怖いと思うことが財産税・富裕税というものを、ちょろちょろ財務省がアドバルーンを上げていることです。またやるなと感じます。財産税をやる時は旧札の発行停止、新札の発行をやるでしょうね。財産税はもともと財務省の若手が考えたものを採用した。それは終戦直後食べ物が無くなり、農産物を買占める人が出てきたので、農林省が当時の大蔵省に相談をした結果、そういう買占めをする人達からお金を取り上げてしまえば買えないからというのが直接の動機。それに政府が債務保証をしていたものの尻拭いをするには、お金はいくら必要か大蔵省で計算をさせたら、今のお金持ちから巻き上げればなんとかなりますということで、緊急の金融措置令がでた。それで狙いどおりに大金持ちからは90%の財産税を取り、庶民は25%の財産税を取っていった。一回だけですけれども、これで賄った。日本政府は、またそれを狙っていると私は思っています。

ちなみに、群馬県には日銀の支店がありまして支店長とお喋りをしました。その時に私が日銀の地下で大金庫室を見ましたけれども、別の所にも、そのための準備のお金が刷られて金庫が用意されている話を聞きましたけれど、本当ですか？と聞いたら、はっきりした返事は返ってきませんでした。

今、群馬県に首都圏機能の移転に関する協議をしています。以前に東京をどこかに移せと話がありましたよね。それに関して群馬県がまたこれから手を挙げようという話が群馬県の経済同友会で起きていて、私とその理念作りの文章を書く役割でやっています。

非常事態が発生した時には、群馬県が引き受けよう。東日本大震災の時に遠野市が補給基地を担った。それを群馬県でやろうじゃないかと話を進め、非常事態の時には、こういうふうにすべきだと私がまた文章を書く役で今やっていますけれども、それが出来上がったら、群馬県への提言と政府への提言をするという段取りになっています。そのとき日銀の支店長がそういうのに絡めながら、群馬県は良いところですよ。そうですねと言ったら、日銀の金庫は首都圏機能移動の時に群馬県のほうに準備しているじゃないですかと。群馬県の間人はそんなことは知らん。ほんの一握りの人間しか知らない。ということでお金は群馬に集中させようという思惑であると、たまたまこの間でました。知らないところで色々な動きが起きています。したがって財産税もありうる。比田井さんが生きていた間に財産税は取られますからね。年金の中から90歳過ぎた私の母親から介護保険を取ってましたから、あれは酷い。住民税だって年金から勝手に取っているでしょう。とにかくそういうことですから、国は目の色を変えて税金を増やしますよ。

基本哲学の「知足」は周知のことです。テーマは1月から12月に書いてありますから、それを見ていただく。先ほど60年前のことを申し上げたから良いでしょう。ちょっと困ったら自分のスタート地点を振り返ってみること、論語の中から良いなと思う言葉を探していただく。ひとつだけで良いから掴んでください。本当にひとつで良いです。ひとつだけ

何か良い言葉を見つければしめたものです。二つ三つなんて欲張らなくていいです。1年間のテーマを見直していただきたいと思います。

(終了の鐘が鳴る)

今の鐘は揺れていましたから、揺れがおさまるまで待つと良い音色になります。

吉良評議員一せっかちだから御免なさい。

喧嘩しようと思う時は腹を立てても喚かないで、今、揺れているんだなと思って、ちょっと向うをむいて揺れがおさまってきたと思って、振り返ると、喧嘩しないで済みますね。

今日のまとめです。新聞を読む時にピリッとくるものを見つけられるかどうか。今の新聞はまともなこと書きませんから、新聞を読んでいてヒントがあると思えば良いです。

今日みた中ではインドの話があったし、伊藤博文が天皇陛下のことについて皇室典範を論議した時の状況が書いてありますが、伊藤博文は天皇陛下が自分の意志で位を譲ることに強く反対をしたという記事が、その当時のことですが載っていました。

韓国の大統領が弾劾案可決ということですがけれども、年がら年中やっていますね。でもこれを見てほくそ笑んでいるのは北朝鮮ですね。北朝鮮のことは全然説明がない。ただ目の前のことしか言わないから、それを見てヒントだなと思って自分で色々調べる癖をつければ良いと思っています。

トランプ相場はユーロ高を一掃したとか出ているけども、トランプさんの場合だって出るべくして出てきたと思っています。1%対99%の戦いで最近の論調として、私が思っていることは1%の金持ちは教育レベルが高く既得権益を守りたい人。99%の教育レベルがどんどん下がっている貧困家庭層。トランプさんはその貧困層に目をつけてうまくいった。

時代の流れが別にアメリカだけではない、日本だけではない、ヨーロッパ、世界全体に広がっているから、どんどん変わっていき来年は大きく揺れる時代。

これだけ覚えといてください「酉」という字は、革命という意味が入っています。ですから大いなる変革が来年は起きることでしょう。以上で終了です。